

## 1、重点課題に対する取り組みについて

### (1) 保育指針に則った子ども自ら発達する力を培うための子ども主体の保育の推進

#### (外部環境)

新保育所保育指針の改定により、0・1・2 歳児の保育の充実、幼児教育を行う施設として共有すべき事項の「3 つの資質・能力(①知識及び技能の基礎 ②思考力・判断力・表現力等の基礎 ③学びに向かう力・人間力)」、「幼児期に育てたい 10 の姿」が明確化されています。これまでより社会情動的スキル(非認知能力)の大事さが問われ、その獲得には乳幼児期の大人の関わりや子ども集団が重要な役割を果たしていることが明らかになっています。

#### (重点課題に対する取り組み)

- ・環境(人的環境・物的環境)を通して子どもの発達を保障する保育(見守る保育)の理論と実践を学び、園内研修や園外研修を取り入れながらチームや個人で学びを深め、子どもの主体性を育てる保育を実践しました。
- ・子どもの主体性を育てるために、子ども一人ひとりの発達について保育士が定期的に複数人数で保育指針に則った発達チェックすることにより(未満児は毎月、以上児は3カ月毎)、子どもの理解に努め保育の工夫に活かしました。
- ・職員集団や担当箇所チームを組み、その中での連携や子ども理解に努め、チーム保育を実施しました。
- ・同じ保育に取り組む三園との合同研修を通して、人的環境としての子どもへの声かけ・応答的援助の仕方や、子どもの主体性を育む保育環境の整備、行事の取り組み方等についての研修を深めました。

### (2) 発達障害、情緒障害を持つ児童を支援するための態勢の構築

#### (外部環境)

保育園・幼稚園・小学校において気になる子が 10 人に 1 人も 7 人に 1 人も言われている現在。本園でも全園児の中で 12 名が療育事業所に通い、その他にも気になる子は数名います。この子どもたちが園での生活の中で自分らしく安心して活動できるように、また就学に向けてより良い成長・発達のために最も適切な教育の場で就学できるように支援することが課題です。

#### (重点課題に対する取り組み)

- ・学校心理士が年に 2 回訪問。それまでに子どもの観察記録を作成しそれを基に、学校心理士による子どもの観察と診断、保育士との面談を行い、子どもの発達段階についてや子どもが安心して過ごせる対応・環境について学びました。また、学校心理士と保護者との面談に同席しカウンセリング方法について学んだあと、チームカンファレンスで共通理解を図りました。
- ・子どもの発達についての気づきをより深くするために、子どもの定型発達について学校心理士による職員研修やしらゆき子ども園にて言語聴覚士・作業療法士の定型発達についての合同研修を実施し、本園児についてのふりかえりを行いました。
- ・5 歳児保護者全員と子どもの発達について担当保育士が面談を行い、発達や就学について悩みを抱えている保護者を市の就学相談に結びました。また、就学相談について市と連携を取るとともに、療育事業所に通園している子どもについても療育事業所との情報交換会に参加し、子どもの発達について共通理解を図りました。
- ・就学先小学校の連絡会に参加して気になる子どもについての発達と園での支援について情報共有をし、また、小学校での生活がスムーズにできるように移行支援シートを作成・提供しました。

### (3) 保育士の質の向上のため、キャリアパス研修体制の構築・合同研修の実施

#### (外部環境)

子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うために、職員一人ひとりの倫理観と人間性並びに保育所職員としての専門的な知識・技能が必要であり、職務の専門性を高めることにより保育園全体の質の向上につながります。職員のキャリアアップのための研修体制を構築することが必要です。

#### (重点課題に対する取り組み)

- ・職員一人ひとりがそれぞれの目標・課題意識を持ち、研修にとりくみ資質向上に努めるとともに、研修内容は職員間で共有し、園全体の実践力を高めるようにしました。
- ・市保育園協会や日本保育協会主催のキャリアアップ研修に3年以上の職員は全員参加できるような研修体制を作り、必ず

一人一科目以上の研修を受けられるようにしました。(正規職員)

- ・ 個別目標の確立やそれぞれの得意分野のマイスターの任命をし、それぞれの活動でリーダーに立てるような人材育成に努めました。
- ・ きずな保育園との合同研修にて交流を含めた研修を行い、慈愛会職員としての質の向上に努めました。

## 2、事業活動報告

### (1)年齢別在籍児童数

(年平均人数)定員110名

年齢 性別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
男児	6人	16人	10人	11人	15人	14人	72人
女児	3人	11人	7人	11人	9人	7人	48人
計	9人 (14人)	27人 (14人)	17人 (21人)	22人 (18人)	24人 (20人)	21人 (23人)	120人 (110人)
割合	7.5%	22.5%	14.2%	18.3%	20.0%	17.5%	100%

( )は前年度実績

※0歳児については、育児休暇明けの入所が月毎に増え一年を通して変動があった。

(他の年齢は年間を通じほぼ一定数)

### (0歳児月別在籍数)

月 性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	2人	2人	5人	5人	5人	6人	6人	6人	6人	6人	7人	7人	63人
女児	2人	2人	3人	3人	3人	3人	3人	3人	4人	4人	5人	5人	40人
計	4人 (6人)	4人 (6人)	8人 (8人)	8人 (8人)	8人 (8人)	9人 (9人)	9人 (9人)	9人 (9人)	10人 (10人)	10人 (10人)	12人 (12人)	12人 (12人)	103人 (104人)

( )は前年度実績

### (年間延べ人数)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
29年度	164	166人	253人	216人	240	276人	1,315人
30年度	103人	327人	209人	264人	288	252人	1,443人
前年比	-61人 133%	+161人 197%	-44人 83%	+48人 122%	+48人 120%	-24人 91%	+128人 110%

### (2)保育事業

	保育計画	実践	反省・課題
0歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の生活リズムを大切にしながら生理的欲求を満たし、愛着形成の元、安心して過ごせるようにする</li> <li>・衛生的で温かい環境の元で、健康に過ごせるようにし、情緒の安定を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳児と一緒に生活したり遊んだりしながら子ども同士の関わりを多く持てるようにした。</li> <li>・子どもたちの発達を保障する環境を意識して整えた。遊ぶ、食べる、寝る、のゾーンを分けて移動する中で生活リズムが自然と身に付くように工夫した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの欲求を満たしながらゆったりとした生活リズムを心掛け、その中で1歳児との関わりを取り入れることで子ども同士の刺激が大きく成長に関わることが出来た。</li> </ul>
1歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる保育士との関わりや自ら活動したくなるような環境の中で過ごし、基本的な生活習慣を獲得しようと意欲を持つ。</li> <li>・戸外遊びを多く取り入れ、自然との関わりの中で興味・関心を広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが意欲的に活動できるような様々な遊びを工夫して保育を行った。</li> <li>・天候、体調を見ながら戸外遊びを取り入れ、また室内や廊下、階段も使い体を動かす環境を整えるなどして体力の向上や運動機能の発達につなげた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・27名の大人数のクラスになったが、子ども達一人ひとりを理解しながら遊びの広がりにも努めた。そのためにはチーム内の職員の連携が最も重要であり、共通理解を深めるための話し合いは不可欠であった。</li> </ul>

2歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣を身に付け、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。</li> <li>自由に活動できる安全な環境の中で友だちと関わって楽しく遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣が身に付くような援助や自分でやってみようとする意欲を高める環境づくりを行った。</li> <li>室内・戸外でも自然に触れ、五感を刺激する機会を多く持てる遊びの工夫を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸外遊びや園外保育を意識的に多く取り入れたため、子どもたちは1年を通して健康で体力も増加していたように感じられる。</li> <li>園外保育を通してお年寄りとの交流を多く持つこともできていた。</li> </ul>
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな体験を通し、いろいろな物事に興味や関心を持ち、自主性を育てる。</li> <li>保育士や友だちとの関わりの中で、安心感を持って遊びや活動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣を身につけるとともに当番活動に参加し、意欲を持てるようにするための保育の工夫を行った。</li> <li>体を動かし、自然と触れることを楽しめるような戸外あそびや園外保育を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年上の友だちと一緒に当番活動をすることで、自然に覚えていくことも多く、また年上の友だちとのつながりもでき、そこから遊びも広がっていく様子が見られた。異年齢児保育ならではの活動も多く取り入れられた。</li> </ul>
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いだけでなく、相手の気持ちを考えたり感じたりしながら人間関係を深め、集団としての行動ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な当番活動に取り組みながら年上の子から教えてもらったり、年下の子に対しての興味関心が高まりお世話したりすることの喜びを感じていた。</li> <li>力を合わせることを楽しむ遊びや活動を多く経験した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年長児と組みながら当番活動をすることで、真似ることから身につけられるように工夫した。</li> <li>友だち間でのトラブルも時々見られたので、友だちの思いに気づき、自分で考えられるような関わりを工夫した。</li> </ul>
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>人との関わりの中で、社会生活に必要な態度(社会性)や基本的な生活習慣を身に付け、自主性を育てる。</li> <li>自分の思いを言葉で表現したり、友だちの思いを認めたりしてその思いを大切にしながら生活や遊びに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学に備えた基本的な生活習慣を身につけ自立できるような援助を行い、子どもたちが主体的に生活・遊びができるような環境設定を行った。</li> <li>人との関わりを大切にし、年下の子のお世話をすることに喜びを感じたり、友だちの気持ちをくみ取りながら自分の気持ちを表現したりできるように援助を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中力が短い子どもたちが多いため、活動の意図をわかりやすく説明したり、楽しく意欲的に取り組めるような活動の工夫を心掛けていた、子どもたちも成長するにしたがって、周りの状況や相手の気持ちを考え、行動したり表現したりすることが出来るようになってきた。</li> </ul>

### (3)給食事業

主な計画	実践	反省・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>献立の立案</li> <li>給食検討会の実施</li> <li>嗜好調査の実施</li> <li>食育の年間計画立案</li> <li>アレルギー除去食の提供</li> <li>共食の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地産池消を取り入れ、地域の特産を生かして料理や食材の旬を生かして料理を味わえるような献立を工夫した。</li> <li>幼児食の他に離乳食の献立を成長に応じて作成した。</li> <li>毎月1回栄養士・保育士・園長で会議を開き、喫食状況や食への子どもの意識、食の場の環境について話し合った。</li> <li>園での食育への取り組みが家庭でどのように反映されているか家庭での食生活の調査をし、家庭での様子を知ることにより、食事や健康面での情報を提供し、献立に反映させた。</li> <li>年間計画に伴い野菜作りや収穫を行ったり、調理前の旬の食材に触れたり食べたりすることで、季節感を味わった。</li> <li>クッキングも多く取り入れ、作って食べる楽しさも味わえた。</li> <li>アレルギーを持つ子どもへ代替メニューの提供と配膳トレイの分別を行った。</li> <li>5歳児が、01歳児と月1回一緒に食事をするることにより、食事の介助をしたり交流を持ったりしながら共食を楽しんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>咀嚼や嚙む力などの発達を考え、素材や調理法を工夫した献立を取り入れることができていた。</li> <li>全クラスの子どもの食事の状況を把握することにより、献立や調理法の改善を図った。</li> <li>給食や食育に対する感想・意見等もたくさんいただき、励みにもなった。</li> <li>子どもが取り組む野菜の種まきや収穫の様子などを月毎の食育体験として掲示したり、食育便りで知らせたりすることで保護者の食に対する関心も高まり、家庭での話題も増えたようだった。</li> <li>離乳食・アレルギー食の子どもの把握、その日のメニューについて担当保育士と調理師で周知徹底し連携をとることで、誤飲誤食を防止できた。</li> <li>食事の前からの交流になるため、手洗いやエプロン付けなど食事準備や食事を介して5歳児と01歳児のきずなが自然にはぐくまれていった。</li> </ul>

### (4)地域交流事業

事業名	実践	反省・課題
-----	----	-------

毎月 12月	世代間交流事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「愛と結の街」をクラスごとに訪問し、自己紹介や歌、お遊戯や手遊び歌などを披露してお年寄りとの交流を深めた。</li> <li>・園外散歩時にグループホームの前で声かけをし、自然な流れの中でお年寄りと触れ合っていた。</li> <li>・餅つきに保護者の方々や小原町のお年寄りの方3名が参加され、餅をついたり丸めたりして、子どもたちとの交流を楽しまれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症で延期になっても予備日を作っていたため、延期して実施できたことがよかった。お年寄りの嬉しそうな表情が印象的であった。</li> <li>・園外保育では恒例となっており、グループホームの前で呼びかけると、すぐに数名のお年寄りが出てくるほど自然に交流が持てるようになった。</li> <li>・無理のないように配慮して手伝っていただいた。世代を通して職員も学ぶ場にもなっている。</li> </ul>
7月 8月 10月	異年齢児交流事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店やさんごっこに園児 110 名、小学生・地域の未就園児 15 名参加。</li> <li>・小学生 1 年生 21 名が来園し、一日保育士として園児のお世話やカレークッキングをしながら園での活動を楽しんだ。</li> <li>・運動会「異年齢児のかげっこ」に、未就園児・小学生 30 名が参加。</li> <li>・お遊戯会に 12 名の小学生が参加。舞台上「USA」の曲に合わせて踊った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年のテーマ「かごしま」にちなんだ商品を作る過程や買ったり売ったりする活動を楽しむことができた。</li> <li>・小学生が園児に優しく声かけをしながらお世話している姿や、協力しながらクッキングをする様子が見られ、成長が嬉しかった。</li> <li>・未就園児は半周、小学生は1週の徒競走だったが、怪我もなく盛り上がったのでよかった。</li> <li>・男性保育士と一緒に楽しそうに参加していた。</li> </ul>
9月	育児支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在園児の保護者を対象に育児講座として、親子体操や園での子どもたちの様子をビデオ撮影したものを視聴し、本園の保育の説明や子どもたちの成長発達について話をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の子どもだけでなく、他のクラスの子どもの生活の様子や子どもたちの成長の様子をみることで、保護者にとっても子どもたちの発達の見通しがつくようで、喜ばれていた。</li> <li>・本園の保育の意図についてパワーポイントを使いわかりやすく説明したので、納得してもらえたと感じる。</li> </ul>

#### (5) 幼児保育相談事業

日 時	内 容	対応・反省
第1回 6月4日(月) 18:30~20:30	(学校心理士 野田弘一先生) ・保育の質を意識した養護と教育「その考え方と実践」について、職員全員対象の研修会で講話。	・子どもの定型発達について学ぶとともに、専門的知識の必要性を学び、専門性を高めるために必要なことも具体的に示され、職員の意識改革にもなった。
第2回 6月5日(火) 10:00~18:30	・5名の園児の観察 ・個々の行動観察とかかわり方について職員と面談(観察児5名) ・保護者3名と発達相談	・子どもの観察を通して、保育士の関わり方や考え方について示された。保育士が自分たちで考えて自分の言葉で言えるように、個々が発達障害児について専門性を上げるため、研修・研鑽が必要である。
第3回 12月18日 10:00~18:30	園児6名についての行動観察と職員との発達相談。・個々の行動観察とかかわり方について職員と面談(観察児6名) ・保護者1名と発達相談	・専門家から見た、本園の気になる子の特徴やその理由、またその子たちに対しての関わり方を具体的に学ぶことができた。 ・今まで悩んでいた保護者の方が野田先生と面談することによって、安心感から涙を流して気持ちを整理されていた。

#### (6) 実習受け入れ

学校名・人数	実習期間	日 数	目 的
東谷山中学校 3年 2名	H30/5/16~5/18	3日間	職場体験学習
鹿児島大学医学部保健学科 4名	H30/6/7・6/28	2日間	看護学生・小児健康論演習
鹿児島大学医学部小児科 8名	H30/7/6・7/13・7/20・7/27	2日間ずつ	医学部生・保育所実習
就労支援センターステップ 1名	H30/8/27~9/7	10日間	職場実習
鹿児島中央看護専門学校 18名	H30/7/17~10/5	4日間	小児看護学実習
東谷山中学校3年生8クラス	H30/10/15~11/1	1日間	家庭科授業 子どもとの関わり

鹿児島医療技術専門学校 10名	H30/11/5～11/9 H30/11/12～11/16	5日間	小児看護学実習
鹿児島キャリアデザイン専門学校2年1名	H30/9/10～9/22	12日間	保育実習
鹿児島女子短期大学	H31/2/15～2/27	12日間	保育実習

### 3. 相談・苦情

計 画	内 容	対応・反省
<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からの相談・苦情を広く受け付けるために、日々の連絡帳や苦情箱から苦情をひろいあげ、HP 上に公開する。</li> <li>相談苦情解決責任者・受付担当者・第三者委員を決定し、公表する。</li> <li>保護者には入所時また保護者懇談会時に「相談苦情申出窓口」についての紹介を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子どものおむつの持ち帰りについて</li> <li>②領収書の紛失について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の話を聞いた後で、園としてのやり方の意図を丁寧に説明した。また、改善できるところは職員間で話し合い、その後の対応に努めた。</li> </ul>

### 4. 防災訓練

計 画	実 施 内 容	反省・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎毎月、防災・避難訓練を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月消火訓練も行う</li> <li>・年2回脇田分遣隊立ち合いの訓練を実施</li> </ul> </li> <li>◎月3回安全点検(園舎・園庭)を行う</li> <li>◎災害用品の購入を進める。</li> <li>◎保護者へ避難所の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎毎月、防災・避難訓練を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災避難訓練(年5回) (うち、脇田分遣隊2回) (うち、第二避難所まで避難1回)</li> <li>・地震避難訓練(年4回)</li> <li>・津波避難訓練(第三避難所まで避難)</li> <li>・台風避難訓練</li> <li>・不審者避難訓練 (市安心安全課の指導派遣有り)</li> </ul> </li> <li>◎月3回園内の安全点検 (保育士2名1組で実施)</li> <li>・安全点検のマニュアルに沿って</li> <li>◎防災・災害用品購入 防災頭巾 30個購入(全園児分そろ)</li> <li>◎重要事項説明書・園のしおりに記載</li> <li>・入園説明会にて説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脇田分遣隊立ち合い時に、災害時の避難についてはなしがある。避難は早ければよいが遅いことがいけないということではなく、けが人を出さないことと人数の確認が最も重要とのこと。</li> <li>・地震の際は隣地のブロック塀の危険性を認識し、避難経路を考慮する。</li> <li>・破損箇所は早めに報告するように徹底する。</li> <li>・全園児分購入済み。防災頭巾を着用した避難訓練を続ける。(地震時)</li> <li>・地域の人たちや施設と連携をとっていく必要がある。</li> </ul>

### 5. 会議及び研修

#### (1) 研修計画(園内)

主な計画	実 践	反省・課題
◎一円対話	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員(保育士・栄養士・調理師・事務)を5グループに分け、ファシリテータ(FT)5人を立てて毎月1回ずつ一円対話を実施。 (見守る保育の理念を実践する中で気づいたこと、感じたことについて一人ずつ話をする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一円対話の大事な部分を残しつつ、チーム内でのコミュニケーションがもっと円滑になるようにチーム内での一円対話をすすめていき、課題を持って園内研修にも取り組めるようにする。</li> </ul>
◎二園合同研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○きずな保育園との合同研修と言うことで、2回ずつ正規職員が分かれて相手園を訪問し、午前中は見学、昼にはチームに分かれてカンファレンスを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学研修においてお互いの保育や環境を見ながら話し合いをすることで、学びも多く、交流も深まった。次年度には嘱託職員やパート職員の見学交流を続けていく。</li> </ul>
◎三園合同研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○藤森先生講演会(4月)</li> <li>○講演会に先駆け、各園の保護者向けの講演会も実施。</li> <li>○三園(しらゆきこども園・竹之迫保育園・おひさま保育園)において見学・体験研修(7月～11月) ・園長、主任による振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三園合同研修も5年目になり、見学・体験研修を半々取り入れ、また、各回に行うカンファレンスにおいて、悩んでいることやこれから取り入れたいこと等も共有し、自園に持ち帰ることができた。</li> <li>・各園とも職員の入替わりもあり、基本の部分が定着していないところもあるので、研修のやり</li> </ul>

		方を考えていく。
--	--	----------

(2)会議

会議名	回数	延べ参加人数	会議内容	参加職種
職員会議	12回	144名	翌月の行事・研修・その他共通理解	園長・保育士・栄養士・事務員
危機管理会議	12回	80名	毎月の事故状況把握・発生防止策について	園長・保育士
給食検討会	12回	60名	喫食状況・献立、食育検討	園長・栄養士・保育士
リーダー会議	5回	35名	行事計画・準備・実施についての共通理解	園長・リーダー保育士

6・年間行事報告

毎月の行事	実践	反省・課題
・誕生会	・月により行事と抱き合わせてそれぞれの担当がリズム室において全体で行った。(毎月保育士2名が担当)	・大人数の集団にすることが苦手の子も増えている。保育士がそばにいて個別に対応しているが、自分の好きなものには興味深く参加しているので、工夫が必要である。
・避難訓練	・月により地震や避難、不審者など災害の種類を変え、また実施時間も様々な時間帯に実施し、第二、第三避難所まで避難する訓練を行った。年に2回脇田分遣隊立会いの下で実施。	・第二、第三避難所までの避難も実施したが、災害に備えての地域との連携作りを強化する必要がある。
・設備点検	・設備点検マニュアルに従い、毎月3回担当保育士2名が点検を行った。	・修理が必要な部分はすぐに業者に連絡し、改善を図った。修繕箇所が年々増えているので計画的な対応が必要である。
・一日保育士	・誕生月の園児の保護者を対象に案内状を出し、一日保育士の週を1週間設け、都合のいい日に半日保育士体験を実施した。	・夫婦揃っての参加者も多く、子どもたちもとても喜んでいる。都合により延期する家庭も増えてきており、預かっている給食代の把握も難しくなっているため、対応を考える。

月	主な計画	実践	反省・課題
4月	進級式	・4月1日に在園児の進級式を行い、4月の誕生会では新入園児を紹介し、入園を祝った。	・3月より新体制で保育を行っているが、4月1日に改めて行うことで、新しい担任も認識し、進級した実感がわいたようだった。
5月	健康診断 交通安全教室 保護者懇談会	・徳永クリニックの徳永先生による健康診断。 ・ヤマト運輸の方々を迎えて交通安全教室を行った。 ・全体会后、太陽スポーツの原口先生による親子体操、給食を食べて降園する。	・ヤマト運輸の方々工夫をされていたため、子どもたちも興味を持って学ぶことができた。 ・01歳はクラスで親子触れ合い遊びを実施することによりゆったりと過ごせていた。
6月	歯科検診	・黒木歯科医院の黒木先生による検診。	・検診日に欠席した子どもの受信日は早めに決め再受診を実施した。
7月	プール遊び開始 七夕まつり お店やさんごっこ	・大きい組、小さい組に分かれ、保育活動の中にプール遊びを取り入れた。(7月～8月) ・21日(土)体験型・参加型のお店やさんごっこを保護者と一緒に実施。親子で売り子と買い手に分かれ実施。	・安全に気をつけることを第一にし、保育士で連携を取りながら実施することができた。 ・「かごしま」のテーマに沿った作品や食べ物、またお楽しみコーナーなどを工夫したことで、子どもも保護者も楽しめる行事となった。
8月	小学生保育士体験 (異年齢児交流)	・卒園児21名が来園し、それぞれのクラスに分かれ子どもたちのお世話やクッキングを楽しんだ。	・久しぶりに卒園児と一緒に活動することで在園児もとても楽しんでいった。
9月	育児講座 十五夜	・77名の保護者が参加。保育園の保育理念の説明した後、園での子ども様子をビデオ視聴し、園での保育のねらいを理解してもらった後に親子で給食の試食会を行った。	・年齢ごとに園での生活の様子を見ることで、子どもの成長や他のクラスの子どもの様子を知ることができ、保護者の園への理解につながると思われる。
10月	運動会 ハロウィン大会	・東谷山中学校の体育館で実施。 ・ハロウィンの衣装をして登園。園内でスタンプラリーをして楽しんだ	・日頃の保育の成果を十分に発揮するとともに、親子での競技を楽しんでいた。午後から希望者での親子競技も取り入れ、事故もなく無事に終えることができた。
11月	秋の親子遠足 健康診断	・平川動物公園で実施。現地集合→親子体操→親子で見学→昼食・解散 ・徳永クリニックの徳永先生による健康診断。	・現地集合で大幅に遅れる保護者も少なく、それぞれのペースで見学を楽しんでもらえた。親子や友だち同士の触れ合いも多くみられた。

12月	発表会 クリスマス会 もちつき(世代間交流)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各年齢の子ども達が発達に応じた表現する姿を保護者の前で堂々と披露することができた。</li> <li>・1歳児父親がサンタクロースの扮装で特別参加。</li> <li>・保護者、町内のお年寄りの方々のお手伝いをいただきながら、餅つきや餅をまるめる体験ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度のインフルエンザを考慮して12月に実施したことで、全員が参加して実施することができた。</li> <li>・保護者のお手伝いをいただきながら、子どもたちはもち米の蒸す匂いやつく様子、できたてのお餅を触るなど、五感を刺激しながら日本の伝統行事のもちつきを堪能できた。</li> </ul>
1月	七草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春の七草、由来を話した上で給食の七草粥をいただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七草の由来を丁寧に伝えていた。</li> </ul>
2月	節分の行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい組は保育室で、2歳児以上はリズム室で節分の豆まきを楽しんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節分の由来を丁寧に説明することで、自分の中の「〇〇鬼」を意識している子もいた。</li> </ul>
3月	ひなまつりの行事 おにぎり遠足 入園説明会 お別れ会  卒園式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム室に飾ってある雛人形を囲んで実施。</li> <li>・雨天のため、園内遠足となった。</li> <li>・卒園していく年長児のために在園児がクラスごとに出し物を披露し、また年長児から在園児への様々なプレゼントも用意され、最後の交流を楽しんでいた。</li> <li>・卒園児21。心をこめて卒園児を送り出そうと温かな雰囲気の中で実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひな祭りへの興味を深める手立てが出来ていた。</li> <li>・体操教室後、好きな場所で好きな友だちと一緒ににおにぎりを食べることを楽しんでいた。</li> <li>・内容を工夫し、可愛らしく踊る年下の子もたちの姿に、大きな拍手をして喜んでいた卒園児の姿に成長を感じた。</li> <li>・卒園式の日だけでなく卒園に向けて子どもの作品や装飾で温かな環境づくりをするなど、園全体で卒園児の門出を祝う気持ちを表すことができた。</li> </ul>